

ブロックチェーンを学んで新しいビジネスを作り出す

クロステックチャレンジ

ブロックチェーンの基礎概念やユースケースのインプットを通して、インフォバーンの「Unchained」(企業のブロックチェーン技術活用を支援するビジネス・ハブ)が独自に開発したフレームワークを活用し、同技術を導入した新規事業アイデアの創出に挑戦します。

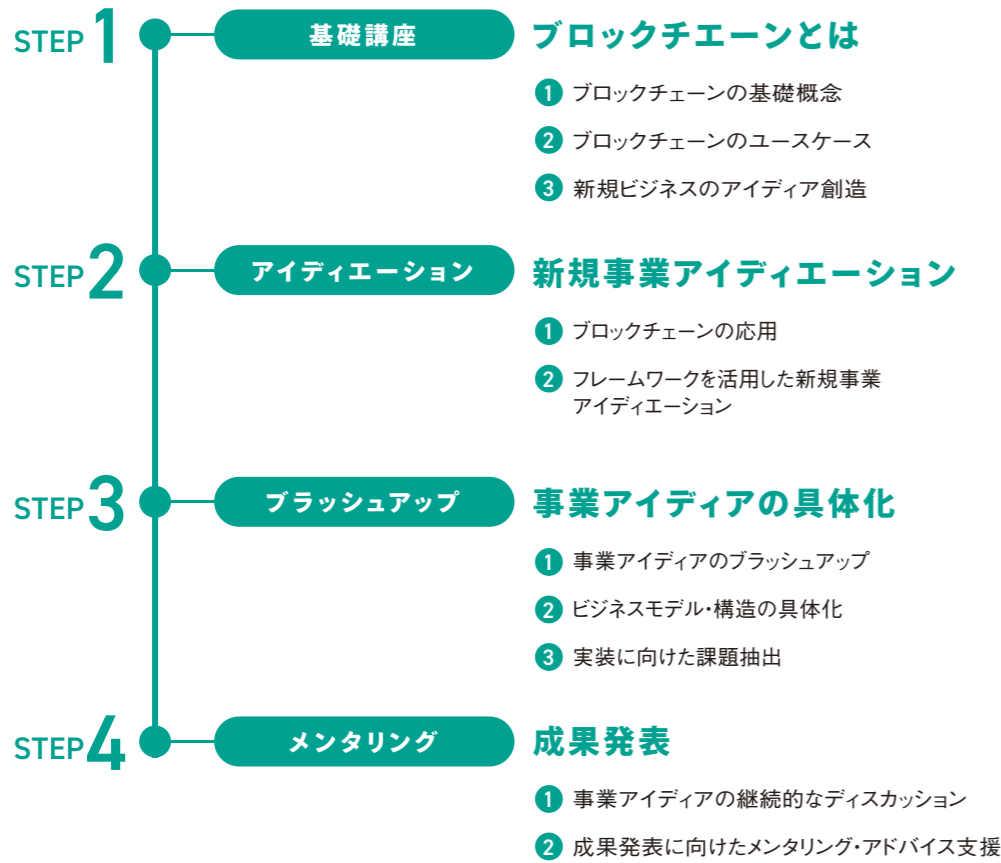
チャレンジド人材のマッチング

本プロジェクトは、発達障害を持った方の強みを生かした「超短時間労働」を地域の不足する人材ニーズにマッチングさせる仕組みをブロックチェーンを活用して実用化しようというもの。その課題の発端は、ブロックチェーンというテクノロジーとはそれまで無縁だった、障害のある子を持つ母親であるコンソーシアムメンバーの純粋な想いから始まったものだった。今回は本プロジェクトのコンソーシアムメンバーの河原氏(オフィスエフエイ・コム)と平岡氏(アンデックスマーレ・広島自閉症協会理事)のお二人にお話を聞いた。

チャレンジャー

- オフィスエフエイ・コム
- アンデックスマーレ
- 角田正博 ● 村山知美

※チャレンジド：挑戦するチャンスや才能を与えられた人という障がいを表現する新しい呼称



各コンソーシアムの取組

【農地のデューデリジェンス】

コンソーシアムメンバー

- 日本ITストラテジスト協会中国支部

【農業・トレーサビリティ】

コンソーシアムメンバー

- レモンコンソーシアム
- 末岡新果園
- anosh
- 広島銀行
- エネルギー・コミュニケーションズ

【余剰電力のシェア】

コンソーシアムメンバー

- エネルギー・コミュニケーションズ

応募は全くの偶然 当初ブロックチェーンの知識はゼロでした

きっかけはたまたま参加したブロックチェーンのセミナーで、平岡さんから聞いたことがきっかけです。そのアイデアにブロックチェーンを活用することがとてもマッチするというアドバイスをいただきました。それまではブロックチェーンをこのアイデア実現に使うことになるとは思ってもいませんでした。(河原氏)



社会と個人がつながると、 思い込みや偏見は少なくなる

チャレンジドとはハンデを負いながら人生に立ち向かう障がいの者の方々を指す言葉です。彼らの強みを活かせば社会に必要とされ誰かの役に立つことができます。発達障がい者は同じことを繰り返す地道な作業が得意だったり一度覚えたことは正確に行うという強みを持っていることが多いです。フルタイムは難しくても週に1回1時間からの超短時間労働なら就労のハードルは下がります。

また雇う側である個人や個人事業主も誰かに任せたいけれどハローワーク等で契約するほどの量ではない細かいタスクをかかえているはず。そういう人手不足と超短時間労働をマッチングし、企業が発達障がい者を雇う、という高いハードルではなく、地域の中で〇〇さんが〇〇さんを雇う、という顔の見えるつながりを目指したいです。

技術的には発達障がい者の方の特性を活かせるタスクを洗い出しマッチング、必要な情報の登録審査、契約、作業後の評価履歴などの管理と、複数の承認を得ていくという過程にブロックチェーンを活用することを今回のコンソーシアムで検討していきました。(平岡氏)

お仕事マッチングアプリの流れ



お仕事 ▶ 応募 ▶ 承認 ▶ 合意 ▶ 契約 ▶ 作業 ▶ 評価 ▶ 承認

社会課題をテクノロジーで解決し、 誰もが生きやすい社会をつくりたい



今後の課題の一つは、システムを実際に開発運用していくための予算の確保です。

社会問題解決のため自治体の支援を受けながら成功事例を積み重ね、全国に広げていきたいと考えています。(河原氏)

シルバー人材センターも最初は雇用する側される側双方にハードルがあったはずですが、自治体为主导することで安心感や信頼感が生まれ地域に根付いていったのではないのでしょうか。これが発達障がい者や引きこもりなどの社会的弱者の雇用となると、ハードルに加えて心のバリアも相当高いものになるはず。行政の協力のもとにまずは個人と個人がつながり、少しずつ理解を深めてもらい協力者を増やしていくプロセスが必要です。

広島県を含む自治体の41%が知的・精神障がい者の雇用がなく、その理由は見合った仕事がない、サポートの仕方がわからない、長時間勤務が難しい、との記事を読みました。

これらのハードルをクリアしていくのがチャレンジド人材センターであり、対象となる発達障がい者は人口の6~10%、引きこもりの方は推定100万人と言われています。

彼らが生きがいを見出せる社会こそ誰もが生きやすい社会なのではないでしょうか。(平岡氏)

知識がなくても、アイデアの種から芽が出る

全く知識のないところから「ブロックチェーン」という技術を使って、事業のビジョンが見えるまで様々な専門家の方にフォローしてもらえこのプログラムにはとても感謝しています。知識がなくても、アイデアの種があれば参加できるというのは非常に魅力的だと思います。(平岡氏)

偶然が重なったということもありますが、このプログラムがなければ出会ってなかったメンバーと出会えたことは大変貴重なことだと思います。そして技術ありきではなく、社会課題に着目したプロジェクトを進められたのは、コンソーシアムを組んだからこそこの価値であると感じています。また、本気で実現したいという想いにしっかりと応えてくれるプロフェッショナルとプログラムが用意されていて、個人・企業を問わず有意義なプログラムだと思います。(河原氏)

取材協力

オフィスエフエイ・コム 河原氏
アンデックスマーレ 平岡氏

